

「放射線の影響がわかる本」の改訂について

公益財団法人 放射線影響協会

昭和 35 年(1960 年)に設立された財団法人放射線影響協会は、平成 24 年(2012 年)に公益財団法人に移行し、本年 9 月で設立 60 周年を迎えました。今般、設立 60 周年記念事業の一環として、「放射線の影響がわかる本」について、改訂版を公開いたしました。

「放射線の影響がわかる本」は平成 8 年に発行されて以降、平成 12 年(2000 年)に増補改定を行いました。平成 23 年(2011 年)3 月に発生した福島第一原子力発電所事故以降、放射線の健康影響への人々の関心が高まり、放射線・放射能に関する解説書が数多く出版されてきました。こうした背景を踏まえ、設立 60 周年記念行事のひとつとして、当協会においても本書を新たに改訂し、公開することといたしました。

放射線影響の研究は、近年、細胞や遺伝子の研究の発展に伴って生命の設計図と言われる DNA の研究が進展し、放射線によって傷つけられた DNA の修復や突然変異のメカニズムが徐々に明らかになってきています。また、放射線の影響と「がん」は切り離せない関係にあります。また、「がん」についての研究は、遺伝子解析技術の発展に伴って飛躍的に進歩しています。

今回の改訂では、こうした放射線影響やがんについての最新の研究成果を取り入れて、放射線影響についてこれまでに分かってきたことをできるだけ平易な言葉で紹介することとしました。

本書は、第 1 章と第 2 章で放射線の正体や身の回りの放射線から受けるさまざまな被ばくについて、第 3 章から第 7 章で細胞や人体への放射線の影響、がんとは何か、がんはどのようにしてできるのか、がん遺伝・妊娠・出産と放射線との関係について紹介し、第 8 章では第 1 章から第 7 章までの内容を要約して放射線影響について科学的に分かっていることをまとめました。第 9 章では放射線の利用と管理の現場における放射線防護の考え方を紹介し、第 10 章では放射線被ばく事故の事例を紹介しています。

今回の改訂では、より多くの方々に読んでいただけるように、協会のホームページ上 (http://www.rea.or.jp/wakaruhon/kaitei2020/wakaruhon_main_.html) で公開する形を取りました。

本書が放射線の影響について、みなさまの理解をさらに深めていただくことにお役に立てれば幸いです。